(]	助物	管理	専門課程動	物看護研究科)令和6年度											
	分類	Į						授	業方	法	場	所	教	員	
	選択必修	由	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	攜	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
0			一般教養	社会人として必要な一般知識、人間性の教育を学ぶ。	1 通	36		0			0			0	0
0			パソコン演習	WordやExcel等のパソコンの基本 操作を学ぶ。	1 通	36			0		0			0	
0			合宿研修 《特別授業》	軽井沢研修所で社会人として基本的な団体 行動のマナーや、仲間との共同作業を体験 する。	1 2 通	72				0		0	0		
0			生命倫理・動 物福祉	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉 について学ぶ。	1 通	36		0			0		0		0
0			動物形態機能 学	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。		144		0			0		0		
0			動物繁殖学	繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。		36		0			0			0	
0			動物行動学	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解 する。		36		0			0		0		
0			動物栄養学	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。	1後 23 通	106		0			0			0	
0			比較動物学	飼育動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼育管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。	3	70		0			0			0	0
0			動物看護関連 法規	動物看護に関連する基本的な法規について 学び、社会における愛玩動物看護師の役割 を理解する。		18		0			0		0		

	(動物管理専門課程 動物看護研究科) 令和6年度 分類											18-2 1 4/ 5			
	分類	į						授	業方	法	場	所	教	員	
必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	撫	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
0				動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な 法規について学び、人と動物の共生のあり 方等を理解する。	2 後	18		0			0		0		
0			動物看護学概 論	獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理 について学び、専門職としての社会的責務 を理解し職業意識を形成する。	1 前	36		0			0		0		
0			動物病理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を 学び、病態について理解する。	1 後	36		0			0		0		
0			動物薬理学	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び 副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にど のように用いられるかを理解する。	3 通	72		0			0			0	
0			動物感染症学	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、 検査や診断、衛生管理、予防・治療法など 感染症対策の基礎について理解する。感染 防御に関わる免疫学の基礎について理解す る。	1 2 通	108		0			0			0	0
0			公衆衛生学	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症 について学び、人の健康の維持・増進や疾 病予防への応用について理解する。	1後 2通	72		0			0			0	
0			動物内科看護 学	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、 身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像 診断に必要な検査、所見の記録等について 理解する。		108		0			0		0		
0			動物外科看護	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備 から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統 的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得 する。	2	72		0			0		0		
0			動物臨床看護 学総論	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の 基本的な考え方を修得する。	1後 2通	36		0			0			0	0

		_	専門課程 動	物看護研究科)令和6年度											
	分類	Į						授	業方		場	所	教	員	
必修	選択必修	由	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
0			動物臨床看護	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。	1 通	140		0			0		0		
0			動物臨床検査 学	様々な臨床検査の原理や方法、意義につい て学び、検体や測定機器の正しい扱い方に ついて理解する。	1 通	36		0			0		0		
0			ミュニケー	事前問診、入院動物の容態説明、院内における他の スタッフとのコミュニケーションの基礎について理 解する。	2 通	36		0			0			0	
0			愛玩動物学	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適 切な飼育管理方法について理解する。	1後 2通	70		0			0		0		
0			人と動物の関 係学	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴 史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社 会学的側面から、その実態、課題等を含めて理解す る。	1通 2前	36		0			0		0		0
0			適正飼養指導論	愛玩動物の効用や飼育目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理 のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについ て理解する。	2 後	68		0			0		0		
0			動物生活環境	動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼育環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。	1 通	34		0			0		0		
	0		ペット関連産	ペット関連産業に従事する者としての職業 倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼育のニーズや形態、ペット関連産業を 構成する業種の概要、動物取扱業における 動物取扱責任者としての実践的知識や手法 を学ぶ。	1	34			0		0		0		
	0		コミュニケー	話す・聴く・書くなどコミュニケーション技術の基礎から身だしなみやふるまいを含めた飼主やスタッフ間での接し方を学ぶ。カルテなど情報の記録・管理、電話応対、会計など院内業務について修得する。グリーフケアを理解した飼主応対が実践できるよう学習する。	1 2 通	72				0	0		0		0

〔重	协物	管理	専門課程 動	物看護研究科)令和6年度											
	分類	į						授	授業方法		場	所	教	員	
必修	択	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
0				基本的なグルーミング技法や道具の扱い方等、基本 的な事を学び、実習において実践する。	2 3 通	36				0	0			0	0
0			動物美容実習	器具の使用方法やグルーミングを演習で学び、実習を通じて基本的なベーシックの習得までを目標とする。またサロントリマー検定3級の取得を目指す。	1 2 3 通	180				0	0		0		
0			動物形態機能 学実習	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓 器模型、主要臓器の組織像などを通じて学 ぶ。	2 通	36				0	0			0	0
0			動物内科看護 学実習	内科診療に必要な手技など、動物内科看護 学で学んだ知識の実践力を習得する。	1通 2前	216				0	0			0	0
0			動物外科看護 学実習	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	1 2 通	102				0	0		0	0	0
0			動物臨床看護 学実習	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨 床看護学で学んだ知識の実践力を習得す る。	2 通	102				0	0			0	
0			動物臨床検査 学実習	検体検査に必要な手技や機器の扱い方な ど、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力 を習得する。	2 通	318				0	0		0		
0			正飼養実習	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや 飼い主とのコミュニケーションなど、愛 護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知 識の実践力を習得する。	3	70				0	0		0	0	

(重	协物	管珥	専門課程動	物看護研究科)令和6年度											
	分類	Į						授	業方	_	場	所	教	員	
必	選択必修	由	授業科目名	授業科目概要	配当年次・	授業時	単位	譕	演	実験・実習	校	校	坤	兼	企業等との
修	修	択			学 期	数	数	義	習	· 実 技	内	外	任	任	連 携
0				手術や外傷で落ちた運動機能・筋力を回復し、QOL (生活の質)を改善できるようにリハビリテーションに関する技術、マッサージ療法や運動療法について習得する。	3 通	210				0	0		0		
0			応用動物看護 実習	動物の治療や外科手術で必要となるレント ゲンの撮影法・診断法を実際の実習を通し 習得する。	3 通	102				0	0		0		
0			臨床検査・画	外科動物看護実習を基に臨床で求められる 応用力と正確性・迅速性を身につける。動 物看護過程に沿った周術期看護の計画と実 践を行なう。	3 通	36				0	0			0	0
0			エキゾチック アニマル実習	爬虫類・鳥類・げっ歯類などの動物の生態 を理解したうえで適正な飼養、疾病、治 療、看護などを学ぶ。	3 通	68				0	0			0	
0			動物管理実習	ポスターセッション、口演など研究の成果 発表する上で必要な、効果的なスライドや 図表、抄録の作成、明確に伝える技術を習 得する。	3 通	120				0	0		0		
0				実際の動物診療施設で診療業務に参加し、 これまでに学んだ学習内容を統合する。診 療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼 い主とのコミュニケーション、愛玩動物看 護師としての役割や責任について理解し、 実務能力を修得する。		180				0	0		0		
	0		訓練実習 《必修選択専 門科目》	家庭犬訓練士ライセンス取得を目指し、犬についての基礎知識とトレーニング技術の習得を目的とする。	3 通	102				0	0			0	
	0		猫美容実習 《必修選択専 門科目》	キャットグルーマーライセンス各級取得レベル到達 のための技術向上を目指す。	3 通	102				0	0		0		

〔重	边物 '	管理	専門課程動	物看護研究科)令和6年度											
	分類	į						授	業方	法	場	所	教	員	
必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
	0		ハンドリング 実習《必修選 択専門科目》	ハンドリングを学び、ドッグショーの仕組 み、目的を学ぶ。	3 通	102				0	0		0		
	0			精油の正しい使用方法を学び、犬とのコ ミュニケーションの取り方などを改めて学 習する。	3 通	102				0	0		0		
		0	国内研修	国内の動物関連施設を実際に訪れ、学内で は経験できないことを自ら進んで体験し、 動物分野の理解をより一層深める。	1 2 3 通	108				0		0	0		
		0	海外研修	動物分野において先進国である欧米諸国の動物関連施設を訪れ、最先端の技術・施設等を目の当たりにすることで見識を深める。また、日本との違いを直接肌で感じることで自己向上意欲を高め、今後に役立てる。	1 2 3 通	216				0		0	0		
			校外研修	様々な動物関連施設の実務を体験し、動物 関連の業務及び動物の習性・特徴等を習得 する。併せて、通常の授業では学ぶことの 出来ない社会の規律を体得する。	1 2 3 通	126				0		0	0		0
	合計 49科目 3180単位時間(単位)									180萬	∮位 ₿				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	等
①指定の課程において履修すべき全科目に合格すること。②指定の課程において所定の技能検定 試験に合格し、登録すること。③履修期間の出席日数は、80%以上であること。④学習態度を	1 学年の学期区分	2期
勘案し、人格品性共に社会人としての資質を有すると認められること。⑤納入すべき所定の費用 を期日までに全納すること。	1 学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。